

平成19年度 教師海外研修（派遣国:マレーシア）実践報告

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 英語科

富田 大介

<実践授業>

1. タイトル 熱帯雨林とパームオイルについて理解すること、半自給自足生活を考えること。
2. 授業 英語 時間数 2時間
3. 対象生徒 高校3年生 4クラス 162名

目的

- 1 熱帯雨林とパームオイルについて理解する、
- 2 ダガット村の生活を知ることにより、自らの生活を振り返らせる

【1時間目】

- 1 夏期休暇にマレーシアに行くことを報告
- 2 ボルネオ島、パーム油、およびアブラヤシプランテーションを紹介。
ビデオ(子象の涙)を使ってパーム油と私たちの生活との関連を気づかせる。
そのアブラヤシプランテーションの現状を知り、問題点を考えさせる。
- 3 夏期休暇の課題として
“Oil Palm Plantation”を読ませる。「ボルネオ・ネイチャーブック」別冊山と溪谷 P56
自分の生活のなかでマレーシアを見つけさせる。

【2時間目】

2学期の最初の授業で今回の研修旅行についての報告を入れる予定であったが、帰国後の短期間ではまとめきれなかった。その報告は1月末の授業で行う予定。

授業案

- 1 マレーシアの紹介、ダガット村の位置の確認。
- 2 ダガット村での生活を予想させる。
ダガット村にあるもの、ないものを想像させ、後にビデオを見て確認する。
家、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、本、蛍光灯、水道、ガス、病院、おしゃれ着、iPod、ラジカセ、PC、ピアノ、ギター、携帯、電力、コンビニ、お風呂、エアコン、車、自転車、ボート、コーラ、お酒、めがね、コンタクト、犬、猫、お寺、教会、サッカーボール、スパイク、ウォシュレット・・・
- 3 ダガット村の生活にあって、私たちの生活にないもの、私たちの生活にあってダガット村の生活にないものを考えさせることにより、自分の生活を振り返らせる。
(食事、仕事、レジャー、家族、宗教等)

<授業計画案> 1年生対象に3月に実施予定の授業案

1. タイトル ものを通じて国際関係を知る。豊かな生活を考える。
2. 実践教科 総合 時間数 3時間
3. 対象生徒・学年 高校1年 対象人数 4クラス、160名

1 単元について

1)目的

a 私たちの身の回りにふつうにあるものを見つめ直すことにより、私たちの生活が諸外国と深くつながっていること、そしてつながることにより諸外国、特に発展途上国の経済構造に大きな影響を与え、さらには

その国の環境破壊、そして地球環境にも影響を与える場合があることに気づかせる。ここではマレーシアと日本の関係に焦点を当て、アブラヤシを題材とする。

b 今、私たちは大量消費社会の中におり、多くのものに取り囲まれ、それを購入し消費し、さらに多くのものを捨てている。その物の多さになれており、その数・量の多さを快樂の指標にしている。しかしそのものの多さに自分自身を見失い、私たちの幸せはどこにあるのかがわからなくなっていることが多いように思われる。そんな私たちの生活とダガット村の半自給自足生活と対比させながら、大量消費文明以外の生活があること理解させ、自らの生活を違う視点で見つめ直す機会としたい。

2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時間目 1 生活の中の植物油について 2 パーム油とその利点	植物油について — その用途と歴史 パーム油について — 供給量とその長所	油に関するデータ パームオイルの写真、ビデオ紹介
2時間目 1 アブラヤシプランテーションについて 2 解決方法	プランテーションの問題点を理解させる。 解決方法を考えさせる。	プランテーションの資料、写真、ビデオ
3時間目 私たちの生活とダガット村での生活	ダガット村の生活を想像させ、自らの生活を振り返らせる。	ダガット村の写真、ビデオ

3) 授業の詳細

授業前に、油を通じて世界をみることを予告する。事前指導として、油を大きく分類し、目的別では食用、燃料用、美容用、工業用等、原料別では植物性、動物性、鉱物性があることを確認し、家庭にある食用植物油を調べておくことを課題とする。

【1時間目】パームオイルについて理解させる。

A 生活の中の食用植物油：植物油の中でのパーム油の供給量を確認する。

生活の中にどのような植物油があるのか、生徒に上げさせる。

1 生徒が知っている食用植物油をあげさせる。

使用目的別のサラダ油、天ぷら油と原料別の名称のオリーブ油、胡麻油、菜種油、等々を分ける。

2 上記の中で日本における消費量(供給量)の多い物を確認する。

1位 菜種油(98万トン) 2位 大豆油(63万トン)

3位 パーム油(53万トン) 4位 トウモロコシ油(12万トン)

さらに世界における植物油生産量が以下であることを示し、パーム油が植物油では世界的には1, 2を競う供給量であること、日本においても大きな割合を占めていることを理解させる。

1位 大豆油(3100万トン) 2位 パーム油(3000万トン)

3位 菜種油(1500万トン) 4位 ひまわり油(1000万トン)

B パーム油とは何か、そしてその長所を理解させる。

1 パーム油とは何かを説明する。

アブラヤシの実を見せ、アブラヤシの写真を提示する。

パーム油はこのアブラヤシの実から作られる油。(ココヤシの実からとれる油はヤシ油)

2 パーム油の以下のような利点を考えさせる。

1. 植物であるため、→ 石油などとは違い再生産が可能、二酸化炭素を吸収

→ 自然にやさしい

2. 熱帯産であるため → 他の植物油と違い年間を通じての収穫が可能

さらに

3. 単位面積あたりの収穫が多く、価格が安い。

4. 酸化しにくい

5. 食品の風味を変えない

そのため「植物油脂」の多くはパーム油である。

使用例:「見える油」マーガリン類、サラダ油等

「見えない油」インスタントラーメン、菓子の揚げ油、冷凍・レトルト食品等

【2 時間目】アブラヤシプランテーションの問題点を考えさせる。

A 現実のアブラヤシ 巨大プランテーション

1 アブラヤシの60%がマレーシアにあり、熱帯雨林を伐採してのプランテーション化が現在も急ピッチに進んでいる。その現状を、ビデオ資料を用いて理解させる。

B プランテーション化による利点、およびその影響を考えさせる。

・安定的な雇用の確保、生活水準の向上、

・森林の破壊、動植物の減少、生活環境の破壊、先住民や労働者の人権問題、農薬や山火事等

・隣国からの労働者の増大、

生産者、消費者、労働者、先住民、動物、それぞれの立場からパームオイルについて考えさせる。

C 諸問題の解決方法について考える。

パーム油を取り巻く課題を解決する方法について考え、アイデアを出す。

リストから9項目に絞り込み、各自が順位付けする。

4~5人の小グループで各自の順位付けの結果を比べ、グループの意見をまとめ、発表する。

【3時間目】ダガット村と私たちの生活を比較することにより、それぞれの長所、短所を探る。

A 生徒に以下を問いかける。

1 今、ほしいモノはなにか。

2 今、身の回りにあるもので、なくなると困る物は何か。

B ダガット村での生活を考える。

地方都市サンダカンから船で4時間の場所。さて私たちの身の回りにあるもので、ダガット村では何がないか、何があるのか、またダガット村にあるもので私たちにはないものを推測させる。

C ダガット村での生活についての説明。(ビデオ、写真をつかって)

食事について、食事の仕方、将来の仕事、自然、余暇の使い方、男女差、宗教

D 「あなたはこれから一年間ダガット村に住むことになりました。持っていくものを3つあげなさい。」と問いかけ、考えさせ、発表させる。

<特に参考になった文献、資料>

ボルネオ・ネイチャーブック 別冊山と溪谷

モノのこし方、行く末 京都自由学校発行

日本植物油協会HP、サラヤHP